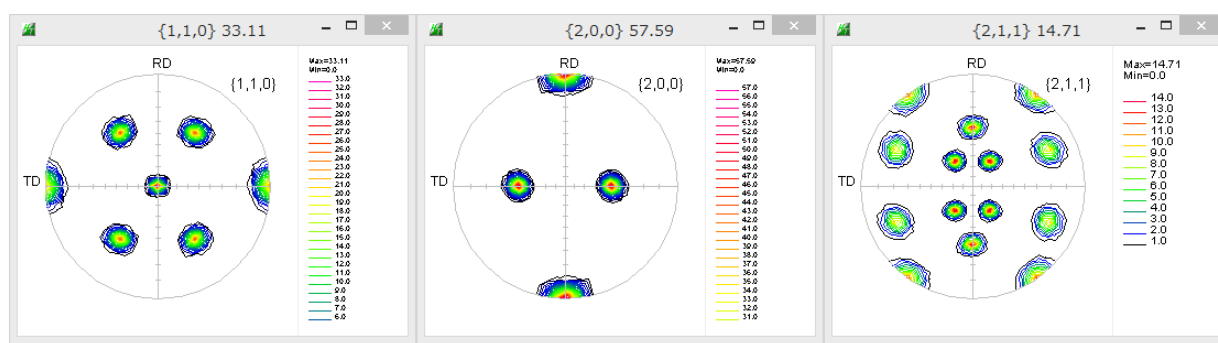


G h o s t 調査の為

フェライト (F e - B C C) をM T E X で解析



解析された結晶方位密度が広がり、最大密度が低下している事が、G h o s t のように見える。

2018年02月05日

*HelperTex Office*

## 概要

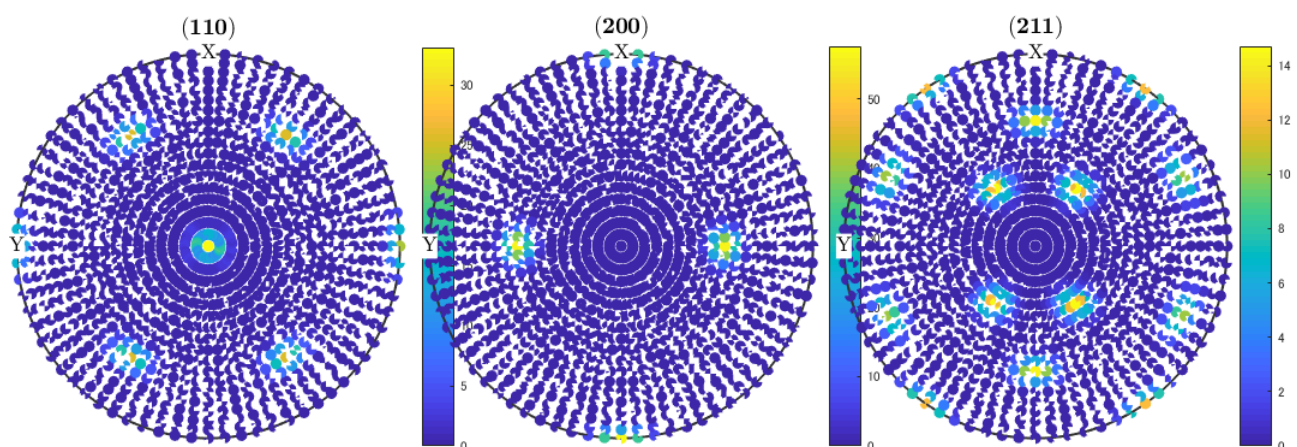
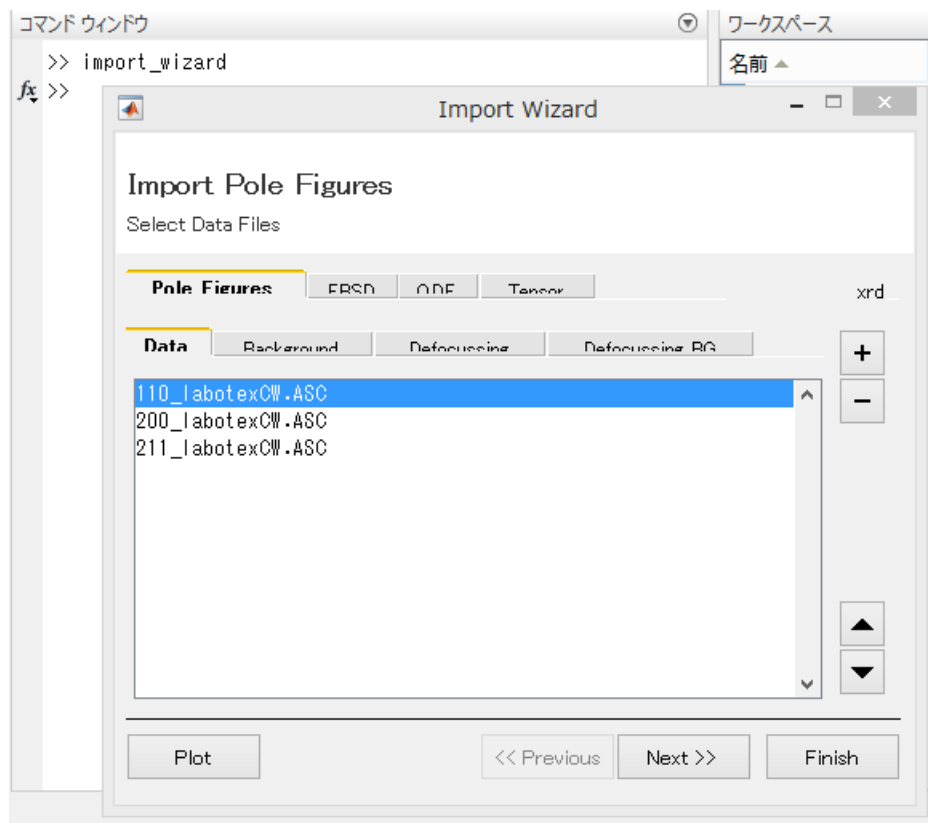
前回の調査で、MTEXはHermonicの可能性が高い

## 入力データ

GossのEuler角の半価幅10degで100%のODF図を作成し  
極点図をExportし、MTEXで解析し、LaboTexと比較する。

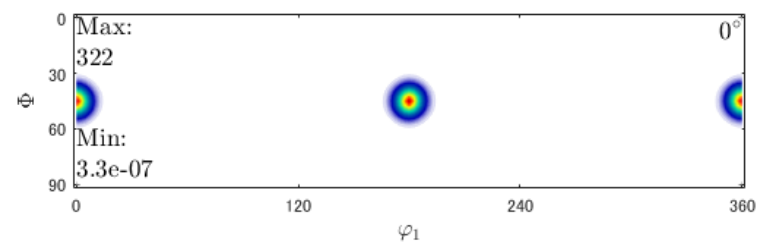
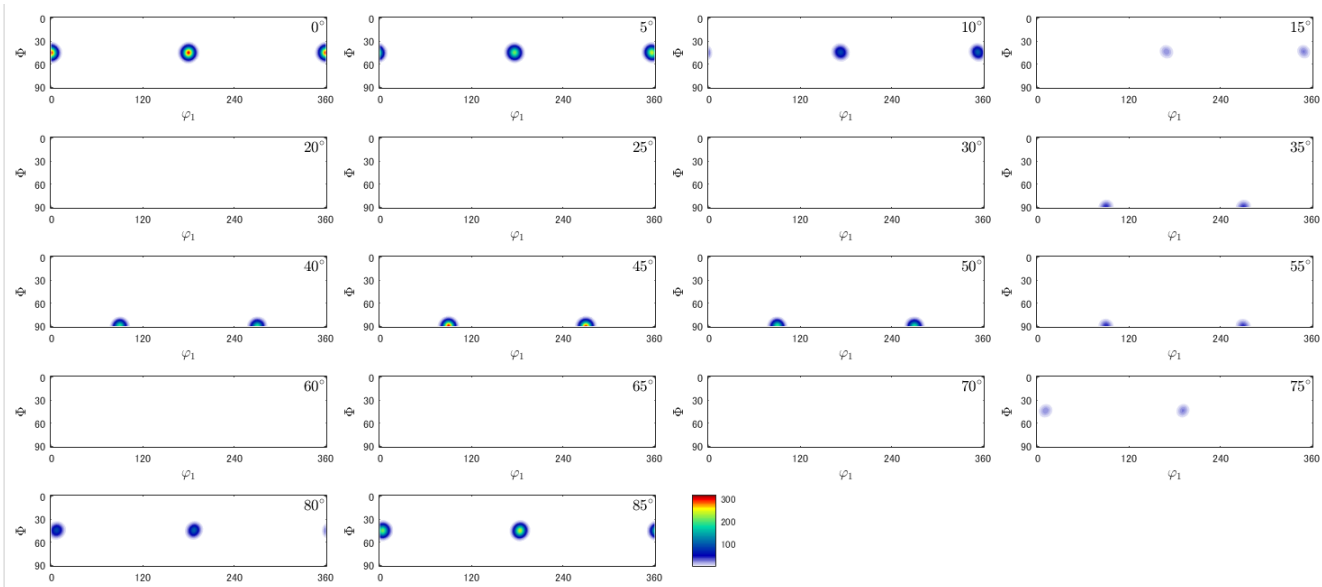
## MTEXに極点図読み込み

Import\_wizard を使って、Asc データを読み込む



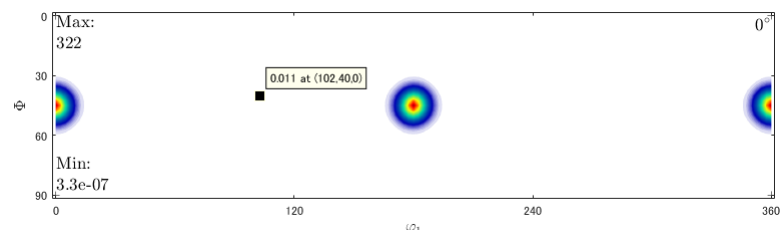
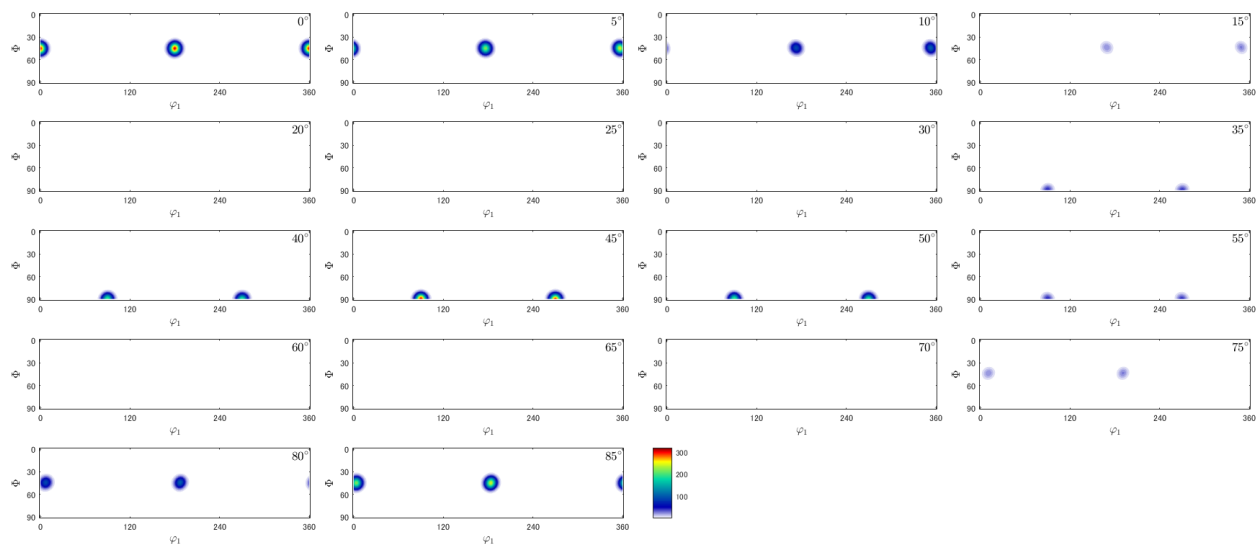
with ghost correction:

```
odf_cor = calcODF(pf,'silent')
```

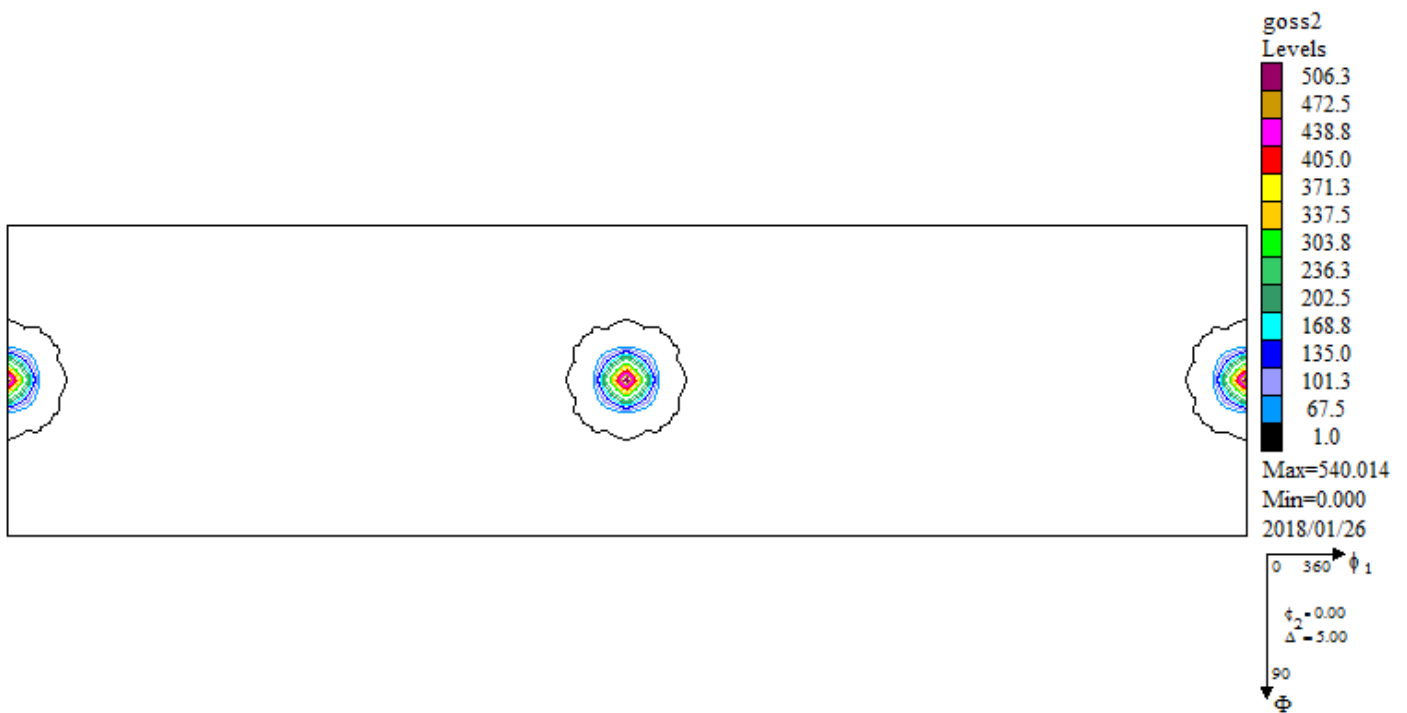
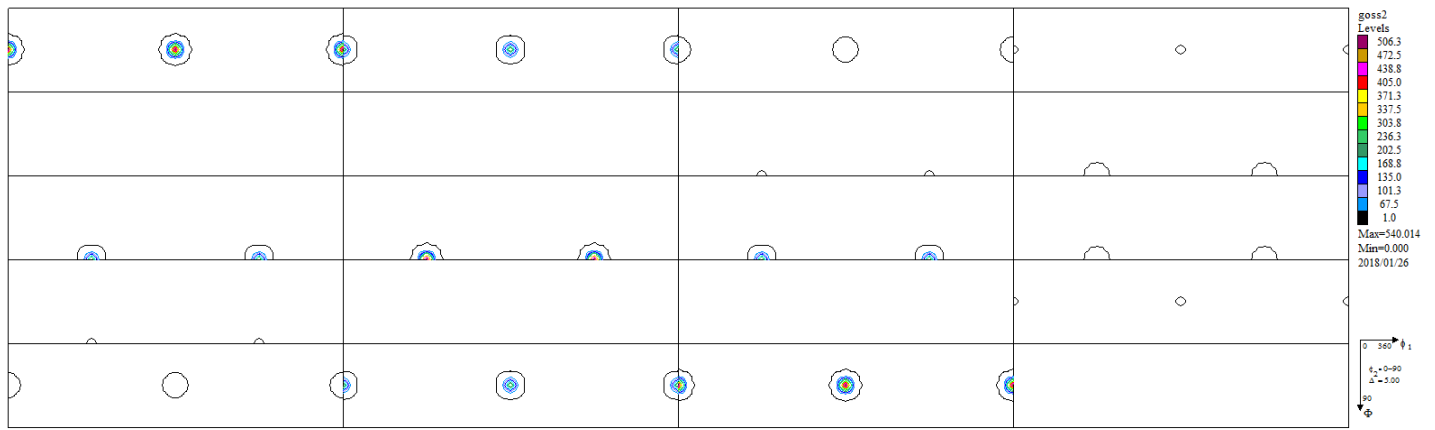


without ghost correction:

```
rec = calcODF(pf,'noGhostCorrection','silent');
```

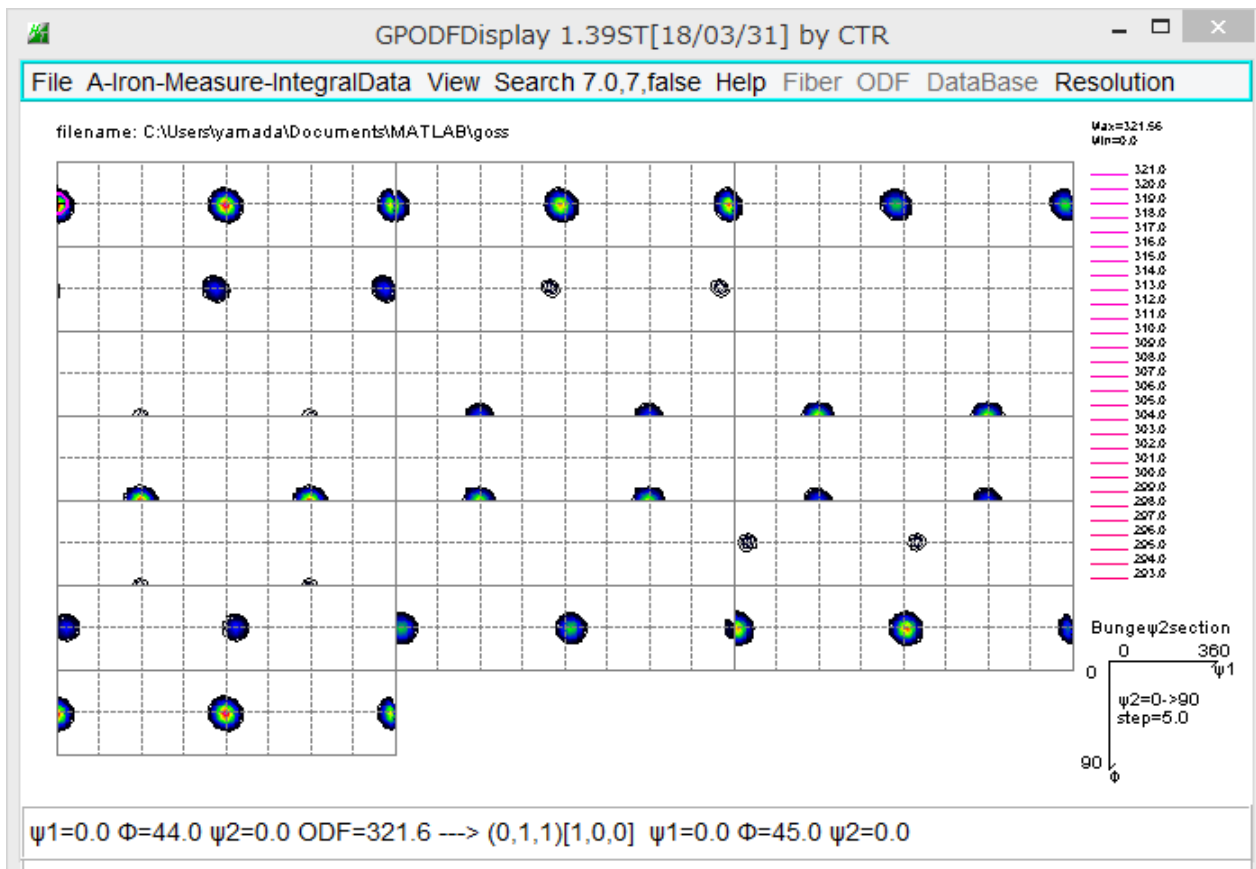


変わらない

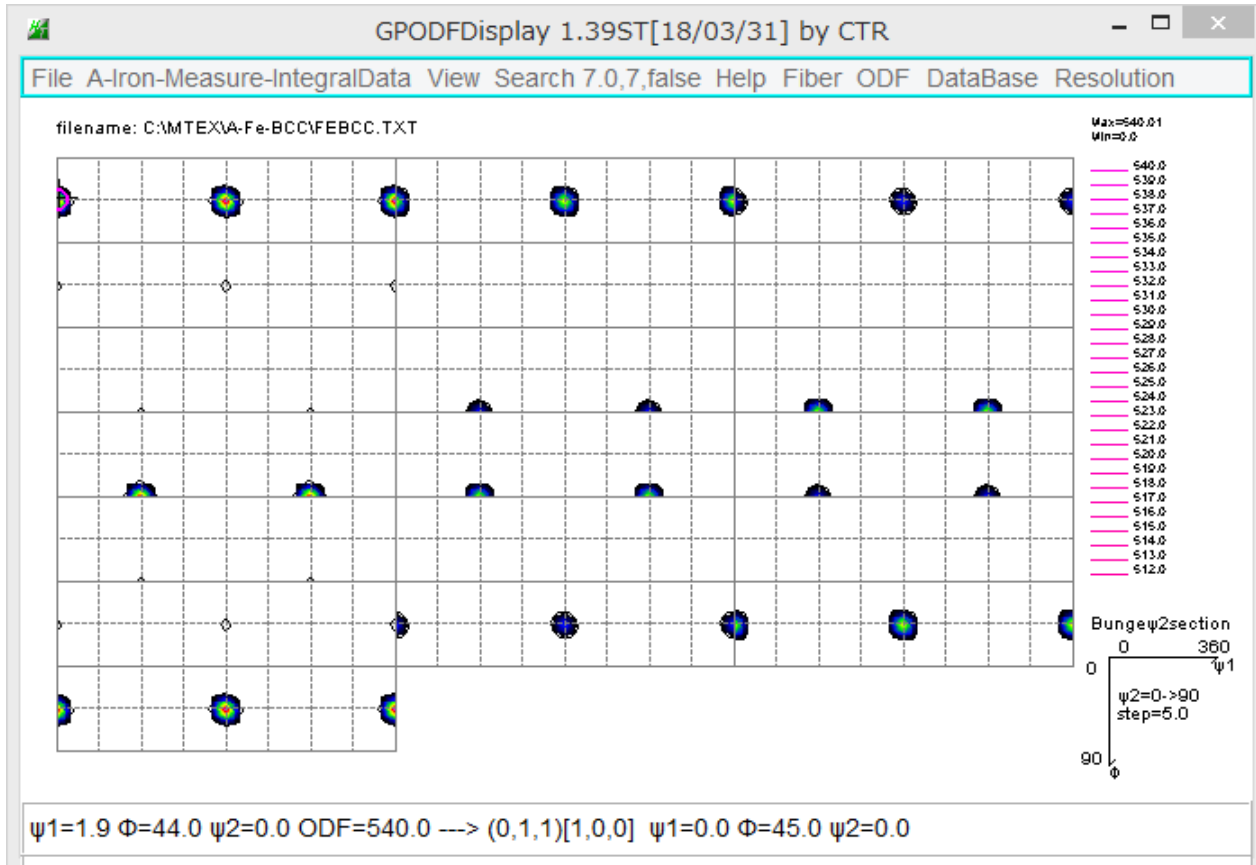


MTEX では若干密度が落ちる (5 4 0 → 3 2 2)

MTEXODFをExportし、GPODFDisplayで表示 (321.96)



LaboTexをGPODFDisplayで表示 (540.01)



等高線間隔を1.0で表示している。

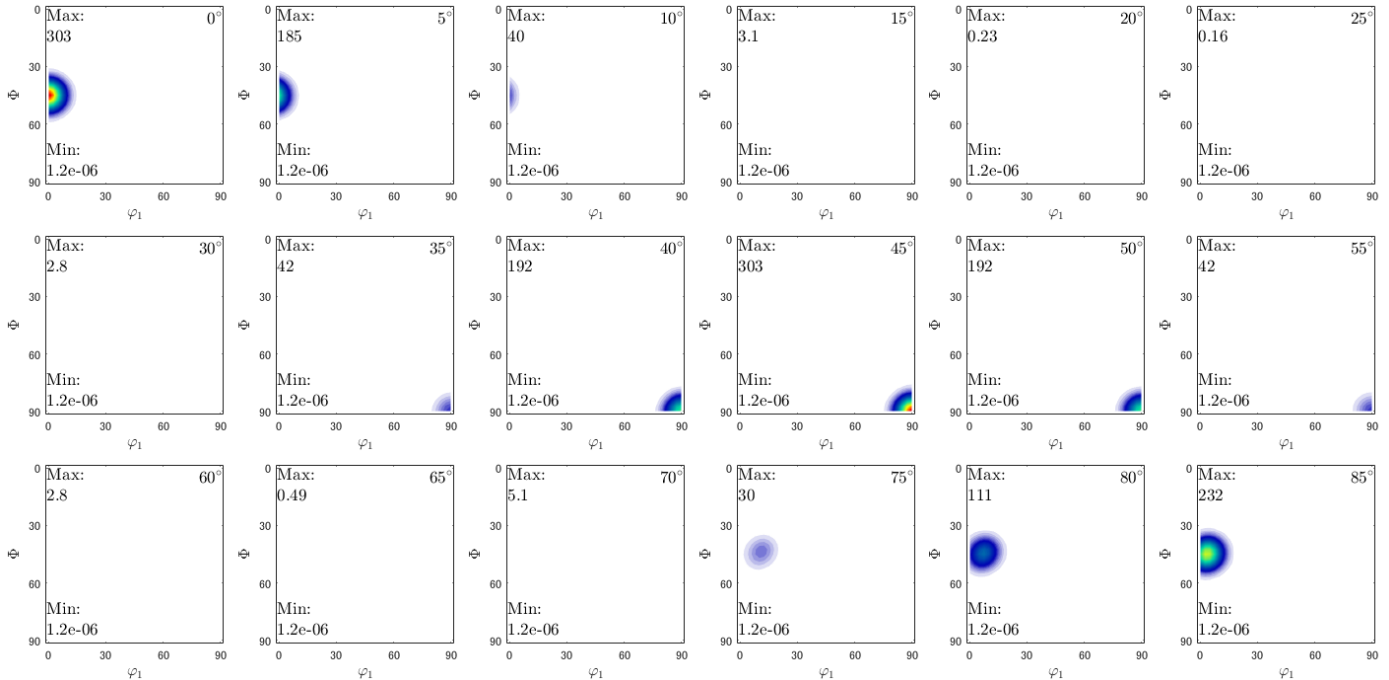
Ghostではなく、結晶方位の広がりがあるため、最大密度が異なる事が分かります。

ODF解析をOrthorhombicで行う場合

Import\_wizard で作成されるソースを変更

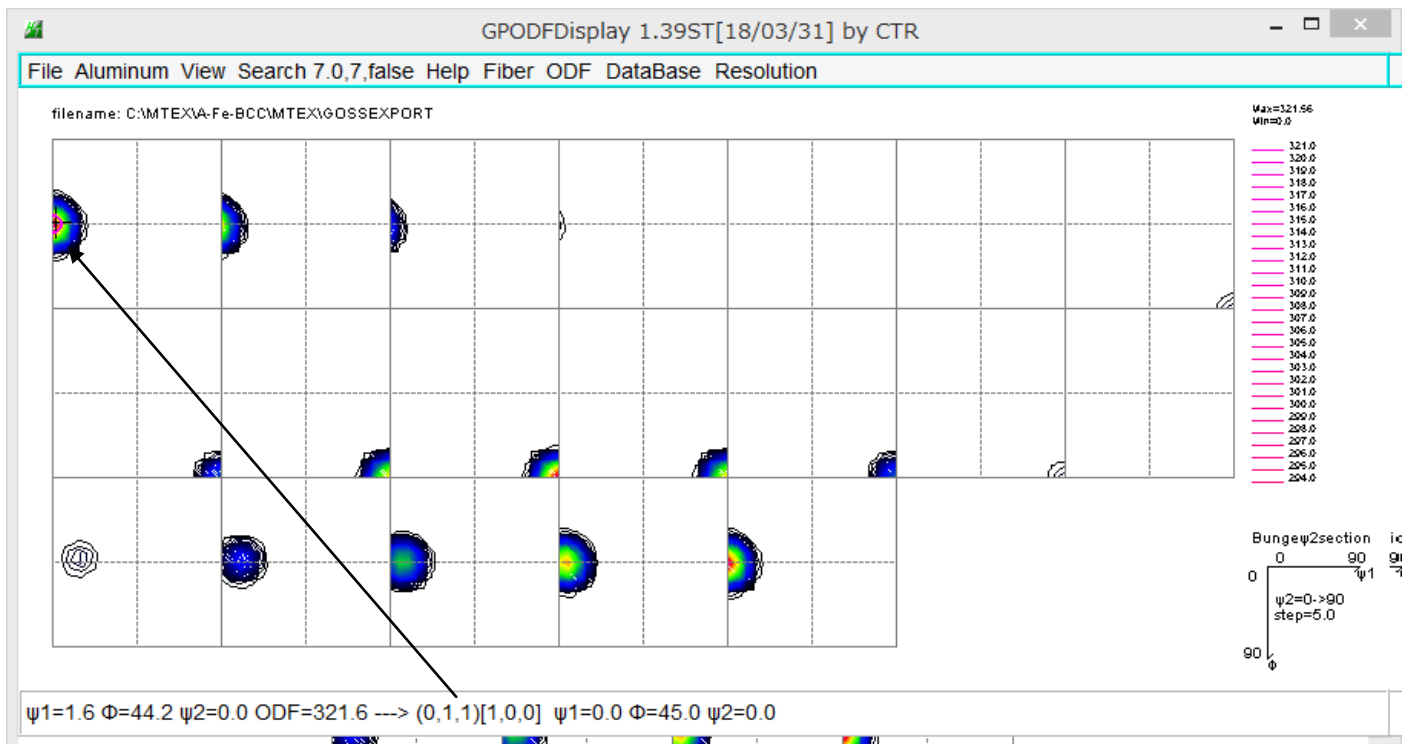
```
% specimen symmetry
SS = specimenSymmetry('1');
SS= specimenSymmetry('orthorhombic');
```

←追加修正



ExportしたODF (TriclinicデータからOrthorhombic)

```
MTEX(f1 f2 Value)
MTEX(Trclinic to Orthorhmbic)
```

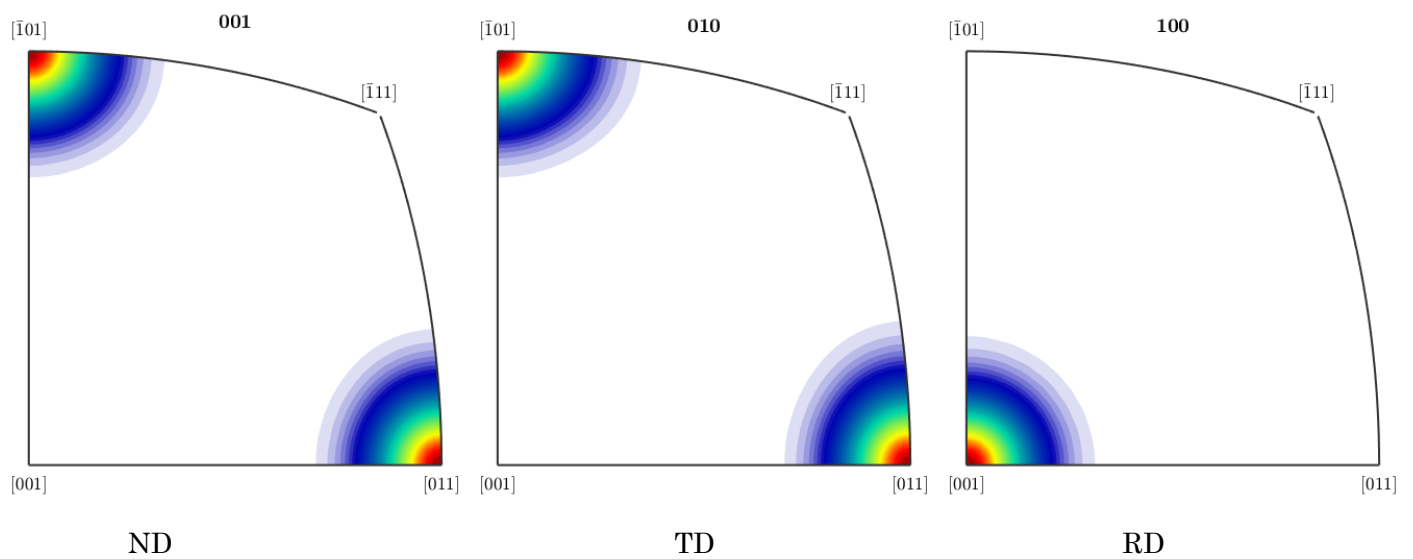


Max値が異なる。MTEXの表示は平滑化が行われている可能性がある。

逆極点図描画

```
>> r=[zvector;yvector;xvector]
```

```
>> plotIPDF(odf,r)
```



逆極点図から{011}<100>

逆極点図NDをE x p o r t し表示

